

(小池張造氏の寄贈による)

2-0012

0397

P.37

大正四年六月八日

大正四年日支交渉ニ關スル公文書

2-0012

0398

目次

第一	加藤外務大臣ノ日置公使ニ與ヘタル訓令	一頁
第二	支那國政府提出ノ對案	九
第三	帝國政府ノ修正案	二九
第四	支那國政府最後修正案	二九
第五	支那國政府ニ對スル帝國政府最後通牒	二九
第六	最後通牒提出ノ際在支日置公使ヨリ陸外交總長ヘ手交セル説明書	三三
第七	帝國政府ノ最後通牒ニ對スル支那國政府ノ回答	三五
第八	大正四年五月二十五日調印ノ條約竝同日交換セル公文書	三七
(參考)	支那國政府公文書譯文	七一

以上

第一 加藤外務大臣ノ日置公使ニ與ヘタル訓令

(大正三年十二月三日附ニテ東京ニ於テ交付)

帝國政府ニ於テハ時局ノ善後ヲ圖リ且帝國將來ノ地歩ヲ鞏固ニシ以テ東洋ノ平和ヲ永遠ニ保持センカ爲此際支那政府トノ間ニ大體別紙第一號乃至第四號ノ趣旨ノ條約及取極ヲ締結致度意圖ニ有之右ノ内別紙第一號ハ山東問題ノ處分ニ係リ別紙第二號ハ大體南滿洲及東部内蒙古地方ニ於ケル我地位ヲ明確ナラシムルノ趣旨ニ有之畢竟南滿洲及東部内蒙古ニ關シテハ帝國ノ地位明確ナラサル點鈔カラサル爲從來日支兩國ノ間ニ諸種ノ問題ヲ生シ延テ兩國ノ國民的感情ニモ好マシカラヌ影響ヲ及ホシタルコト一再ナラサル次第ナルニ付帝國政府ニ於テハ此際同地方ニ於ケル帝國ノ當然有セサルヘカラサル地位ヲ支那政府ヲシテ確認セシムトスルモノニ有之候又別紙第三號ハ我方ノ漢冶萍公司ニ對スル關係ニ顧ミ同公司將來ノ爲最善ノ方策ヲ講セムトスルモノニシテ要スルニ以上三項共何レモ格段ニ新規ノ事態ヲ現出セムトスルモノニハ無之若シ夫レ別紙第四號ニ至テハ帝國政府ニ於テ屢次内外ニ宣明シタル支那領土保全ノ大則ニ更ニ一步ヲ進メムトスルモノニ過キサル次第ニ有之候帝國政府ニ於テハ此機ニ於テ東亞ニ於ケル帝國ノ地歩ヲ益確保シ以テ大局ヲ保全セムカ爲以上各項目ノ實行ヲ以テ絶對ニ必要ト思考スル次第ニシテ帝國政府ハ是非共之カ貫徹ヲ圖リタキ極メテ鞏固ナル決心ヲ

有スル義ニ付貴官ニ於テモ克ク政府ノ意ノアル所ヲ體シ極力御盡瘁相成度將又別紙第五號ハ別紙第一號乃至第四號ノ各項トハ全然別個ノ問題トシテ此際支那ニ其ノ實行ヲ勸告致度事項ニ有之日支兩國親交ノ増進ヲ圖リ其ノ共通利益ヲ擁護セムカ爲ニハ何レモ緊要ノ案件ニシテ中ニハ既ニ日支兩國間ニ懸案ト成リ居レル項目モ有之次第ニ付是又成ヘク我方希望ヲ實現セシムル様精精御盡力相成度又本件交渉中支那當局ハ必ス膠州灣最後ノ處分ニ關スル帝國政府ノ意嚮ヲ承知シタキ旨申出ツヘク候處帝國政府ニ於テハ若シ支那政府ニシテ我要求ヲ應諾スル場合ニハ支那ノ領土保全主義ヲ重シ日支國交ノ親善ヲ増進スル爲同地還附ノコトヲ詮議スルモ苦シカラスト思料致居候ニ付右ニ御含相成度尤モ還附實行ノ場合ニハ同地ヲ開放シテ商港トナシ且我專管居留地ヲ設クル等ノ條件ヲ附スルコト絶對ニ必要ト被存候間還附ノ詮議ヲ聲明セラルルトキバ別ニ請訓ノ上措置セラルルコトト御承知相成度此段及訓令候也

二

第一號

日本國政府及支那國政府ハ偏ニ極東ニ於ケル全局ノ平和ヲ維持シ且兩國ノ間ニ存スル友好善鄰ノ關係ヲ益鞏固ナラシムコトヲ希望シ茲ニ左ノ條款ヲ締約セリ

第一條 支那國政府ハ獨逸國カ山東省ニ關シ條約其ノ他ニ依リ支那國ニ對シテ有スル一切ノ權利利益讓與等ノ處分ニ付日本國政府カ獨逸國政府ト協定スヘキ一切ノ事項ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第二條 支那國政府ハ山東省内若クハ其ノ沿海一帶ノ地又ハ島嶼ヲ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス他國ニ讓與シ又ハ貸與セサルヘキコトヲ約ス

第三條 支那國政府ハ芝罘又ハ龍口ト膠州灣ヨリ濟南ニ至ル鐵道トヲ聯絡スヘキ鐵道ノ敷設ヲ日本國ニ允許ス

第四條 支那國政府ハ成ルヘク速ニ外國人ノ居住及貿易ノ爲自ラ進テ山東省ニ於ケル主要都市ヲ開クヘキコトヲ約ス其ノ地點ハ別ニ協定スヘシ

第二號

日本國政府及支那國政府ハ支那國政府カ南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル日本國ノ優越ナル地位

三

ヲ承認スルニヨリ茲ニ左ノ條款ヲ締約セリ

四

第一條 兩締約國ハ旅順大連租借期限並南滿洲及安奉兩鐵道各期限ヲ何レモ更ニ九十九箇年
ツツ延長スヘキコトヲ約ス

第二條 日本國臣民ハ南滿洲及東部內蒙古ニ於テ各種商工業上ノ建物ノ建設又ハ耕作ノ爲必
要ナル土地ノ賃借權又ハ其ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得

第三條 日本國臣民ハ南滿洲及東部內蒙古ニ於テ自由ニ居住往來シ各種ノ商工業及其ノ他ノ
業務ニ從事スルコトヲ得

第四條 支那國政府ハ南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル鑛山ノ採掘權ヲ日本國臣民ニ許與ス其ノ
採掘スヘキ鑛山ハ別ニ協定スヘシ

第五條 支那國政府ハ左ノ事項ニ關シテハ豫メ日本國政府ノ同意ヲ經ヘキコトヲ承諾ス

(一) 南滿洲及東部內蒙古ニ於テ他國人ニ鐵道敷設權ヲ與ヘ又ハ鐵道敷設ノ爲ニ他國人ヨ
リ資金ノ供給ヲ仰クコト

(二) 南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル諸稅ヲ擔保トシテ他國ヨリ借款ヲ起スコト

第六條 支那國政府ハ南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル政治財政軍事ニ關シ顧問教官ヲ要スル場
合ニハ必ス先ツ日本國ニ協議スヘキコトヲ約ス

第七條 支那國政府ハ本條約締結ノ日ヨリ九十九箇年間日本國ニ吉長鐵道ノ管理經營ヲ委任
ス

第三號

日本國政府及支那國政府ハ日本國資本家ト漢冶萍公司トノ間ニ存スル密接ナル關係ニ願ミ且
兩國共通ノ利益ヲ増進セムカ爲左ノ條款ヲ締約セリ

第一條 兩締約國ハ將來適當ノ時機ニ於テ漢冶萍公司ヲ兩國ノ合辦トナスコト並支那國政府
ハ日本國政府ノ同意ヲクシテ同公司ニ屬スル一切ノ權利財產ヲ自ラ處分シ又ハ同公司ヲシ
テ處分セシメサルヘキコトヲ約ス

第二條 日本國資本家側債權保護ノ必要上支那國政府ハ漢冶萍公司ニ屬スル諸鑛山附近ニ於
ケル鑛山ニ付テハ同公司ノ承諾ヲクシテハ之カ採掘ヲ同公司以外ノモノニ許可セサルヘキ
コト並其ノ他直接間接同公司ニ影響ヲ及ホスヘキ處アル措置ヲ執ラムトスル場合ニハ先ツ
同公司ノ同意ヲ經ヘキコトヲ約ス

第四號

五

六
日本國政府及支那國政府ハ支那國領土保全ノ目的ヲ確保セムカ爲茲ニ左ノ條款ヲ締約セリ
支那國政府ハ支那國沿岸ノ港灣及島嶼ヲ他國ニ讓與シ若クハ貸與セサルヘキコトヲ約ス

第五號

- 一、中央政府ニ政治財政及軍事顧問トシテ有力ナル日本人ヲ備聘スルコト
- 二、支那内地ニ於ケル日本ノ病院、寺院及學校ニ對シテハ其ノ土地所有權ヲ認ムルコト
- 三、從來日支間ニ警察事故ノ發生ヲ見ルコト多ク不快ナル論爭ヲ醸シタルコトモ尠カラサルニ付此際必要ノ地方ニ於ケル警察ヲ日支合同トスルカ又ハ是等地方ニ於ケル警察官廳ニ日本人ヲ備聘シ以テ一面支那警察機關ノ刷新確立ヲ圖ルニ資スルコト
- 四、日本ヨリ一定數量ノ兵器ヲ供給テ仰クカ又ハ支那ニ日支合辦ノ兵器廠ヲ設立シ日本ヨリ技師及材料ノ供給ヲ仰クコト
- 五、日本國資本家ト密接ノ關係ヲ有スル南昌九江鐵道ノ發展ニ資スル爲且南支鐵道問題ニ關スル永年ノ交渉ニ願ミ武昌ト九江南昌線トヲ聯絡スル鐵道及南昌杭州間、南昌潮州間鐵道敷設權ヲ日本ニ許與スルコト

- 六、臺灣トノ關係及福建不割讓約定トノ關係ニ願ミ福建省ニ於ケル鐵道、鑛山、港灣ノ設備、造船所ヲ含ムニ關シ外國資本ヲ要スル場合ニハ先ツ日本ニ協議スルコト
- 七、支那ニ於ケル日本人ノ布教權ヲ認ムルコト

第二 支那國政府提出ノ對案(譯文)

(大正四年二月十二日在支日置公使支那國政府ヨリ接受)

第一號

日本國政府及支那國政府ハ偏ニ極東ニ於ケル全局ノ平和ヲ維持シ且兩國ノ間ニ存スル友好善鄰ノ關係ヲ益鞏固ナラシムコトヲ希望シ茲ニ左ノ條款ヲ締約セリ

第一條 今後日獨兩國政府間ニ於テ獨逸國カ山東省内ニ在リテ條約及成案ノ辦法(獨逸國膠州灣租借條約第一章ヲ除ク)ニ依リ支那國政府ニ對シ享有スル一切ノ利益等ニ關シ處分ヲ協定スルトキハ支那國政府ハ總テ之ヲ承認スヘキコトヲ聲明ス
日本國政府ハ支那國政府カ前項利益ヲ承認シタルトキハ日本國ハ膠州灣ヲ支那國ニ還附スヘキコトヲ聲明シ竝今後日獨兩國政府間ニ前項ノ協商ヲナストキハ支那國政府カ會議ニ加入スルノ權アルコトヲ承認ス

第二條 今回日本國カ膠州灣ニ兵ヲ用ヒタル爲生シタル所ノ各種損害ノ賠償ハ日本國政府ニ於テ凡テ之ヲ擔任スルコトヲ承諾シ膠州灣内ノ稅關電報郵便等ノ各事ニ付テハ膠州灣還附以前ニ於テハ當分從來ノ辦法ニヨリ辦理スヘキモ其ノ用兵ノ爲ニ添設セル軍用鐵道電線等

ハ即時撤廢シ又膠州灣租借地域外ニ殘留スル日本軍隊ハ先ツ撤退シ租借地域内ニ於ケル殘留兵ハ膠州灣ヲ支那ニ還附スル際全部撤退スヘシ

第三條 支那國政府自ラ芝罘或ハ龍口ヨリ膠濟鐵道ニ接續スヘキ鐵道ヲ建設セムトスルトキ若シ外國資本ヲ借入ルル場合ニ獨逸國ニシテ烟灘鐵道借款權ノ拋棄ヲ承諾スルトキハ最先ニ日本資本家ニ商議スヘキコトヲ承諾ス

第四條 支那國政府ハ外國人通商ノ目的ヲ以テ山東省内ニ於テ自ラ適宜ノ地方ヲ選ヒ開キテ商埠トナスコトヲ承諾ス其ノ開埠章程ハ正ニ支那國自ラ之ヲ定ムヘシ

第二號

日本國政府ハ支那國ノ東三省ニ於ケル完全ナル領土主權ヲ終始尊重スルコトヲ聲明シ茲ニ支那日本兩國政府ハ彼我ノ東三省南部ニ於ケル商務ヲ發展セシムル目的ノ爲ニ條款ヲ議定スルコト左ノ如シ

第一條 支那國政府ハ旅順大連租借期限ヲ九十九箇年ニ延長シ民國八十六年即西曆一千九

百九十七年ヲ以テ滿期トシ又南滿洲鐵道ノ全部ヲ支那ニ還附スヘキ期限ヲ九十九箇年ニ延長シ民國九十年即西曆二千一年ヲ以テ滿期トナシ其ノ他ハ總テ各當該原條約ニ照シテ辦理スヘキコトヲ承諾ス

第二條 支那國政府ハ日本國カ安奉鐵道經營期限滿了スルトキ期限延長ノ辦法ヲ商議スヘク其ノ他ノ各節ハ日支滿洲協約附屬第六條ニ照シ引續キ實行スヘキコトヲ承諾ス

第三條 支那國政府ハ現在東三省ニ於テ開放シタル商埠ノ外更ニ地點ヲ酌定シ自ラ開埠通商ヲ行ヒ境界線ヲ劃定シ日本及各國商民ノ任意ニ居住貿易シ並商工業等ノ各種ノ業務ヲ經營スルコトヲ許シ且日本及各國商民カ商工業ニ必要ナル建物ヲ建設スル爲各持主ニ對シ公平ニ借地料ヲ商議シテ土地ノ借入ヲ爲スコトヲ許ス但シ一律ニ各種ノ稅捐ヲ完納スヘシ

第四條 本協約調印ノ日ヨリ一箇年以内ニ日本資本團カ東三省南部ニ在リテ鑛業ヲ經營セムコトヲ希望スルトキハ既ニ試掘又ハ採掘ニ著手セル鑛山ヲ除クノ外支那國政府ハ該地方ニ於ケル鑛山試掘ノ特權ヲ一箇年限リ該資本團ニ附與スルコトヲ承諾ス調査シタル鑛山ニ對シテハ其ノ半數ヲ選擇セシメ支那鑛業條例ニ照シテ採掘ヲ實行スルコトヲ許シ其ノ他ノ各鑛山ハ支那自ラ處置ヲ行フヘシ

第五條 支那國政府ハ今後東三省南部ニ於テ鐵道ノ敷設ヲ要スルトキハ支那國自ラ資金ヲ用



意シ敷設スヘク若シ外國ノ資金ヲ要スルトキハ支那國政府ハ先ツ日本國資本家ニ向テ借入ヲ商議スヘキコトヲ承諾ス

第六條 支那國政府ハ今後東三省南部ニ於テ政治財政軍事ノ外國各顧問ヲ聘用セムトスルトキハ最先ニ日本人ヲ聘用スヘキコトヲ聲明ス

第七條 東三省ニ關スル日支現行各條約ハ本協約ニ別ニ規定アルモノヲ除ク外一切従前ノ通り實行スヘシ

漢冶萍公司ニ關スル交換公文案

第三號

查スルニ漢冶萍公司ハ支那ノ商辦公司ニシテ支那ノ法律ヲ按照スルニ固ヨリ財産ヲ保全シ營業管理ノ權アルカ故ニ政府ハ未タ該公司ト商定セスシテ直ニ自ラ代リテ處置ヲ爲スニ便ナラス但シ該公司ニシテ將來若シ機會アリテ現在ノ事業ニ付日本國商人ト合意ノ辦法ヲ商訂セムコトヲ希望スルトキハ本國ノ法律ニ違背セサル限り支那國政府ハ之ヲ允許スヘシ

第三 帝國政府ノ修正案

(大正四年四月二十六日在支日置公使支那國政府へ提出)

第一號

日本國政府及支那國政府ハ偏ニ極東ニ於ケル全局ノ平和ヲ維持シ且兩國ノ間ニ存スル友好善鄰ノ關係ヲ益鞏固ナラシムコトヲ希望シ茲ニ左ノ條款ヲ締約セリ

第一條 支那國政府ハ獨逸國カ山東省ニ關シ條約其ノ他ニ依リ支那國ニ對シ有スル一切ノ權利利益讓與等ノ處分ニ付日本國政府カ獨逸國政府ト協定スヘキ一切ノ事項ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第二條 (公文交換ニテモ可ナリ)支那國政府ハ山東省内若ハ其ノ沿海一帯ノ地又ハ島嶼ヲ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス他國ニ讓與シ又ハ貸與セサルヘキコトヲ聲明ス

第三條 支那國政府自ラ芝罘(烟臺)又ハ龍口ヨリ膠濟鐵道ニ接續スル鐵道ヲ敷設スルニ當リ若シ獨逸國ニシテ烟灘鐵道借款權ヲ拋棄スルニ於テハ日本國資本家ニ對シ借款ヲ商議スヘキコトヲ約ス

第四條 支那國政府ハ成ルヘク速ニ外國人ノ居住貿易ノ爲自ラ進ンテ山東省ニ於ケル主要都

市ヲ開クヘキコトヲ約ス

附屬交換公文案

開放地點及開埠章程ニ付テハ支那國政府ヨリ豫メ日本國公使ニ協議ノ上決定スヘシ

第二號

日本國政府及支那國政府ハ南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル彼我ノ經濟關係ヲ發展セシムル目的ノ爲ニ左ノ條款ヲ議定セリ

第一條 兩締約國ハ旅順大連租借期限竝南滿洲及安奉兩鐵道ノ各期限ヲ何レモ九十九箇年ツツ延長スヘキコトヲ約ス

附屬交換公文案

旅順大連租借期限ハ民國八十六年即西曆一千九百九十七年ニ至リ滿期トス南滿洲鐵道還附期限ハ民國九十一年即西曆二千二年ニ至リ滿期トス其ノ原條約第十二條ニ記載スル運轉開始ノ日ヨリ三十六年ノ後ハ清國政府ニ於テ代金ヲ支拂ヒテ回收スルノ權アリ云々ノ一節ハ之ヲ無効トス安奉鐵道ノ期限ハ民國九十六年即西曆二千七年ニ至リ滿期トス

第二條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル爲又ハ農業經營ノ爲必要

ナル土地ヲ賃借又ハ購買スルコトヲ得

第三條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ自由ニ居住往來シ各種ノ商工業及其ノ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得

第二條竝本條ニ關シ日本國臣民ハ例規ニ依リ下附セラレタル旅券ヲ地方官ニ提出シ登録ヲ受ケ且日本國領事官ニ於テ承認シタル警察法令ニ服從シ同シク其ノ承認シタル課税ニ服スヘシ民刑訴訟ハ日本人被告タル場合ニハ日本國領事官ニ於テ又支那人被告タル場合ニハ支那國官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派シ臨席傍聽スルトコトヲ得但シ土地ニ關スル日本人支那人間ノ民事訴訟ハ支那國ノ法律及地方慣習ニ依リ日本國領事官及支那國官吏ニ於テ共同審判スヘシ但シ將來同地方ノ司法制度完全ニ改良セララルトキハ日本國臣民ニ關スル一切ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那國法廷ニ於テ審理スヘシ

第四條 (公文交換ニテモ可ナリ) 支那國政府ハ日本國臣民ニ對シ南滿洲ニ於テ別ニ指定シタル各鑛山(既ニ試掘或ハ採掘セラレタル各鑛區ヲ除ク)ヲ速ニ調査選定ノ上試掘或ハ採掘ヲ允許スヘシ但シ鑛業條例確定ニ至ル迄ハ現行辦法ニ據ル

一 奉 天 省

所 在 地

縣 名

鑛 種

十五

牛心台	本溪	石炭
田什付溝	本溪	同上
杉松崗	海龍	同上
鐵廠	通化	同上
暖池塘	錦	同上
鞍山站一帶	遼陽縣ヨリ本溪縣ニ互ル	鐵
二 吉林省南部		
杉松崗	和龍	石炭鐵
紅窑	吉林	石炭
夾皮溝	樺甸	金

十六

第五條 (公文公換ニテモ可ナリ) 支那國政府ハ將來南滿洲ニ於テ自國ノ資金ヲ以テ鐵道ヲ敷設スヘク若シ外債ヲ要スルトキハ先ツ日本國資本家ニ向テ借款ヲ商議スヘキコトヲ允諾ス

支那國政府ハ將來南滿洲ノ各種稅課(但シ已ニ中央政府借款ノ擔保トナレル鹽稅關稅等ノ類ヲ除ク)ヲ擔保トシテ外國ヨリ借款ヲ爲ストキハ先ツ日本國資本家ニ向テ借款ヲ商議スヘシ

第六條 (公文公換ニテモ可ナリ) 支那國政府ハ將來南滿洲ニ於テ政治財政軍事警察等ノ外國各顧問教官ヲ僱用スルトキハ最先ニ日本人ヲ僱用スヘキコトヲ聲明ス

第七條 支那國政府ハ從來支那國ト各外國資本家トノ間ニ締結シタル鐵道借款契約規定事項ヲ標準ト爲シ速ニ吉長鐵道借款契約ノ根本的改訂ヲ行フヘキコトヲ允諾ス

將來支那國政府ニ於テ鐵道借款ニ關シ外國資本家ニ對シ現在ノ鐵道借款契約事項ニ比シ有利ナル條件ヲ付與シタルトキハ日本國ノ希望ニヨリ再ヒ前記吉長鐵道借款契約ノ改訂ヲ行フヘシ

第八條 (支那國政府提出對案第七條) 滿洲ニ關スル日支現行各條約ハ本協約ニ別ニ規定スルモノヲ除クノ外一切從前ノ通實行スヘシ

東部內蒙古ニ關スル事項

一 支那國政府ハ將來東部內蒙古ノ各種稅課ヲ擔保トシテ外國ヨリ借款ヲ爲サムトスルトキハ先ツ日本國政府ニ向テ商議スヘキコトヲ允諾ス

二 支那國政府ハ將來東部內蒙古ニ於テ自國ノ資金ヲ以テ鐵道ヲ敷設スヘク若シ外債ヲ要スルトキハ日本國政府ニ向テ商議スヘキコトヲ允諾ス

三 支那國政府ハ外國人ノ居住貿易ノ爲ニ速ニ東部內蒙古内ノ適當ノ地點ヲ開放スヘキコト

十七



ヲ允諾ス其ノ地點及開埠章程ハ支那國政府ヨリ豫メ日本國公使ニ協議ノ上決定スヘシ
 四 東部内蒙古ニ於テ日支兩國臣民合辦ニ依リ農業及附隨工業ノ經營ヲ爲サムトスルトキハ
 支那國政府ガ之ヲ允許スヘシ

第三號

日本國ト漢冶萍公司トノ關係ハ極メテ密接ナルニ付他日同公司關係者ト日本國資本家トノ間
 ニ合辦ノ議成リタルトキハ支那國政府ニ於テ之ヲ承認スヘク又支那國政府ハ同公司ヲ沒收セ
 サルヘク又日本國資本家ノ同意ナクシテ同公司ヲ國有ト爲スコトナカルヘク且又日本國以外
 ヨリ外資ヲ公司ニ入レシムルコトナカルヘシ

第四號(左記ノ要領ヲ支那國政府自ラ宣言スルコト)

支那國政府ハ支那國沿岸ノ港灣及島嶼ヲ他國ニ讓與若クハ貸與セサルヘキコト

第五號

一 (交換公文案)

支那國政府ハ福建省沿岸ニ於テ造船所、軍用貯炭所又ハ海軍根據地ヲ設ケ若ハ其ノ他ノ軍事
 上ノ施設ヲ爲スコトヲ何レノ國ニモ許ササルコト及支那國政府ニ於テ外國ノ資金ニヨリ該
 省沿岸ニ同様ノ施設ヲ爲ササルコト

二 (交換公文案)

武昌ト九江南昌線トヲ聯絡スル鐵道及南昌杭州間、南昌潮州間鐵道借款權ニ付テハ他外國
 ニ於テ故障ナキコト明ナルニ至リタル場合ニハ必ス日本國ニ許與スヘク又ハ別ニ日本國政
 府ヨリ本件關係他外國トノ間ニ直接交渉ヲ纏ムヘキニ付右纏マル迄ハ本件鐵道ハ何レノ國
 ヘモ許與セサルヘキコト

三 (陸外交總長聲明案)

(一) 支那國政府ハ將來必要ノ場合ニハ日本人顧問ヲ傭聘スヘシ
 (二) 日本人支那内地ニ於テ學校、病院ヲ設立スル爲土地ヲ租借購買セムトスルトキハ中央
 政府ハ之ヲ允許スヘシ
 (三) 他日適當ノ機會ニ於テ支那國ヨリ陸軍武官ヲ日本國ニ派シ日本軍事當局者ト直接兵
 器購入若クハ合辦兵器廠設立ノコトヲ協議スヘシ

四 (日置公使聲明案)

支那ニ於ケル日本人ノ布教權ノコトハ追テ更メテ我方ヨリ交渉ヲ開始スヘシ
五、警察ノ件(撤回)

二十

帝國政府ハ支那國政府ニ於テ以上我修正案ヲ承認スルニ於テハ戰役終結後膠州灣租借地ニシテ全然我自由處分ニ委セラレル場合ニハ左記條件ノ下ニ之ヲ支那ニ還附スヘキ旨支那國政府ニ對シ約束スヘシ

- 一、全部商港トシテ開放スルコト
- 二、日本國カ指定スル地區ニ日本專管居留地ヲ設置スルコト
- 三、列國ニシテ希望スルニ於テハ同居居留地ヲモ設置スルコト
- 四、獨逸施設物ノ處分其ノ他ノ條件手續等ニ付テハ還附實行ニ先テ日支兩國間ニ協定ヲ遂クヘキコト

以上修正案提出ノ際日置公使ハ支那國政府ニ對シ左ノ通聲明セリ

以上各條文公文譯文等ノ辭句用語等ニ付テハ追テ確定ノ際修正スル所アルヘキコトヲ留保ス

第四 支那國政府最後修正案 (譯文)

(大正四年五月一日在支日置公使支那國政府ヨリ接受)

第一號

日本國政府及支那國政府ハ偏ニ極東ニ於ケル全局ノ平和ヲ維持シ且兩國ノ間ニ存スル友好善隣ノ關係ヲ益鞏固ナラシムコトヲ希望シ茲ニ左ノ條款ヲ締約セリ

第一條 支那國政府ハ日後日獨兩國政府間ニ獨逸カ山東省内ニ於テ條約及成案ノ辦法ニ據リ支那國政府ニ對シテ享有スル一切ノ利益等ノ處分ヲ協定シタルトキハ總テ承認スヘキコトヲ聲明ス

日本國政府ハ支那國政府カ前項利益ヲ承認シタルトキハ日本國ハ膠州灣ヲ支那國ニ還附スヘキコトヲ聲明シ且今後日獨兩國政府間ニ協商ヲナストキハ支那國政府カ會議ニ加入スルノ權アルコトヲ承認ス

第二條 今回日本國カ膠州灣ニ於テ兵ヲ用ヒタル爲生シタル所ノ各種損害賠償ニ對シテハ日本國政府ニ於テ凡テ之ヲ擔任シ且膠州灣内ノ稅關電報郵便等ノ各事ニ付テハ膠州灣カ還附セラレサル以前ニ於テハ從來ノ辦法ニ據リ辦理スヘキコトヲ承認ス其ノ兵ヲ用フル爲添架

二十一

セル軍用鐵道電線等ハ即時撤廢シ又膠州灣租借地域外ニ殘留スル日本軍隊先ツ撤退シ租借
地域内殘留兵ハ膠州灣ヲ支那ニ還附スル際ニ全部撤退スルコト

第三條 (交換公文案) 支那國政府ハ山東省内若クハ其ノ沿海一帶ノ地又ハ島嶼ヲ何等ノ名義
ヲ以テスルニ拘ラズ別國ニ讓與シ又ハ貸與セサルヘキコトヲ聲明ス

第四條 支那國政府ハ自ラ芝罘(烟臺)又ハ龍口ヨリ膠濟鐵道ニ接續スル鐵道ヲ敷設スルニ當
リ若シ獨逸國ニシテ烟灘鐵道借款權ヲ拋棄スルニ於テハ日本國資本家ニ對シ借款ヲ議スル
コトヲ約ス

第五條 支那國政府ハ外國人ノ居住貿易ノ爲成ルヘク速ニ自ラ山東省ニ於ケル適當ナル地方
ヲ商埠トシテ開クヘキコトヲ約ス

(交換公文案) 開放スヘキ地點及開埠章程ハ支那國政府自ラ之ヲ定メ日本國公使ト協議ノ
上決定スヘシ

第六條 以上各條ハ將來日獨政府間ニ協商スヘキ讓與等ノ事項ニシテ若シ或ハ確定シ能ハサ
ルトキハ本件豫約ハ無効タルヘキモノトス

第二號

日本支那兩國政府ハ南滿洲ニ於ケル彼我ノ經濟關係ヲ發展セシムル目的ノ爲ニ左ノ條款ヲ議
定セリ

第一條 兩締約國ハ旅順大連租借期限並南滿州及安奉兩鐵道ノ各期限ヲ何レモ九十九箇年ツ
ツ延長スヘキコトヲ約ス

(附屬公換公文案) 旅順大連租借期限ハ民國八十六年即西曆一千九百九十七年ニ至リ滿期
トス南滿鐵道還附期限ハ民國九十一年即西曆二千二年ニ至リ滿期トス其ノ原條約第十二
條ニ記載スル運轉開始ノ日ヨリ三十六年後ハ清國政府ニ於テ代金ヲ支拂ヒテ回收スル
ノ權アリ云々ノ一節ハ之ヲ無効トス安奉鐵道ノ期限ハ民國九十六年即西曆二千七年ニ至
リ滿期トス

第二條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ商業上ノ建物ヲ建設スル爲又ハ農業經營ノ爲必要ナル
土地ヲ其ノ所有者ヨリ商租スルコトヲ得

第三條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ自由ニ居住往來シ各種ノ商業及其ノ他ノ業務ニ從事ス
ルコトヲ得

前二條ニ記載スル日本國臣民ハ例規ニ依リ下付セラレタル旅券ヲ地方官ニ提出シ登錄ヲ受



ケ應ニ支那違警律及違警章程ニ服從シ一切ノ賦稅ヲ支那人同様ニ完納スヘク民刑訴訟ニ至
リテハ各被告ノ本國官吏ノ審判ニ歸シ彼我員ヲ派シ傍聽スルコトヲ得但シ日本人ト日本人
トノ訴訟及日本人ト支那人トノ訴訟ニシテ土地若クハ租契ニ關スル爭執ハ支那官吏ノ審
判ニ歸シ日本國領事官ヨリ員ヲ派シ傍聽スルコトヲ得但シ將來同地方ノ司法制度完全ニ
改良セララルトキハ日本國臣民ニ關スル一切ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那國法廷ニ於テ審理
スヘシ

第四條 支那國政府ハ從來支那國ト各國資本家トノ間ニ締結シタル鐵道借款契約規定事項ヲ
標準トナシ速ニ吉長鐵道借款契約ノ根本的改訂ヲ行フヘキコトヲ允諾ス

將來支那國政府ニ於テ鐵道借款ニ關シ外國資本家ニ對シ現在ノ鐵道借款契約事項ニ比シ有
利ナル條件ヲ付與シタルトキハ日本國ノ希望ニヨリ再ヒ前記吉長鐵道借款契約ノ改訂ヲ行
フヘシ

第五條 (交換公文案) 支那國政府ハ日本國臣民ニ對シ南滿洲ニ於テ別ニ指定シタル各鑛山
(既ニ試掘或ハ採掘セラレタル各鑛區ヲ除ク)ヲ速ニ調査選定ノ上試掘或ハ採掘ヲ允許スヘ
シ但シ鑛業條例確定ニ至ル迄ハ現行辦法ニヨル

第六條 (交換公文案) 支那國政府ハ將來南滿洲ニ於テ自國ノ資金ヲ以テ鐵道ヲ敷設スヘク若

シ外債ヲ要スルトキハ先ツ日本國資本家ニ向ツテ借款ヲ商議スヘキコトヲ允諾ス

支那國政府ハ將來南滿洲ノ各種稅課(但シ已ニ中央政府借款ノ擔保トナレル鹽稅關稅等ノ
類ヲ除ク)ヲ擔保トシテ外國ヨリ借款ヲ爲ストキハ先ツ日本國資本家ニ向ツテ借款ヲ商議
スヘシ

第七條 (交換公文案) 支那國政府ハ將來南滿洲ニ於テ政治財政軍事警察ノ外國各顧問教官ヲ
傭聘スルトキハ最先ニ日本人ヲ傭聘スヘキコトヲ聲明ス

第八條 滿洲ニ關スル日支現行各條約ハ本協約ニ別ニ規定スルモノヲ除クノ外一切從前ノ通
實行スヘシ

東部內蒙古ニ關スル交換公文案

(一) 支那國政府ハ嗣後南滿洲及熱河道所轄ノ東部內蒙古ニ於テハ關稅鹽稅以外各種ノ稅課ヲ
以テ外債ノ擔保トセサルコトヲ聲明ス

(二) 支那國政府ハ嗣後南滿洲及熱河道所轄ノ東部內蒙古ニ於テ鐵道ヲ敷設セムトスルトキハ
支那國自ラ資金ヲ調達シテ敷設スヘク若シ外債ヲ要スル場合ニハ他國トノ成約ニ抵觸セサ
ル限リ先ツ日本國資本家ト商議スヘキコトヲ聲明ス

(三) 支那國政府ハ外國人居住貿易ノ爲成ルヘク速ニ自ラ南滿洲及熱河道所轄ノ東部內蒙古ニ

於ケル適當ノ地方ヲ商埠ト爲スコトヲ承諾ス其ノ章程ハ支那國ノ他地方ニ於テ既ニ自ラ開ケル商埠ノ辦法ヲ按照シテ辦理スヘシ

第三號

日本國ト漢冶萍公司トノ關係ハ極メテ密接ナルニ付他日同公司ト日本國資本家トノ間ニ合辦ノ議成リタルトキハ支那國政府ニ於テ之ヲ承諾スヘク又支那國政府ハ同公司ヲ沒收セサルヘク又國有トナスコトナカルヘク且又日本國以外ヨリ外資ヲ公司ニ入レシムルコトナカルヘシ

第四號

支那國政府ハ自己ノ發意ニ基キ左ノ宣言ヲ爲スコト
支那國政府ハ支那國沿岸ノ港灣及島嶼ヲ他國ニ讓與若クハ貸與セサルヘキコト

第五號

日置公使ヨリ外交總長ヘ發スル公文案
聞ク所ニ據レハ支那國政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ外國ニ造船所軍用貯炭所海軍根據地及其ノ他一切ノ軍事上ノ施設ヲ爲スコトヲ許シ又支那國自ラ外資ヲ借入レ前記各施設ヲ行フヘシトノ趣ナルカスル事實アリヤ否ヤ回答アラントナリ
外交總長ヨリ日置公使ニ發スル回答案
何月何日附來示ノ趣闕悉セリ支那國政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ外國ニ造船所軍用貯炭所海軍根據地及其ノ他一切ノ軍事上ノ施設ヲ爲スナ許スカ如キコト決シテ無之又外資ヲ借入レ前記施設ヲ爲サムト欲スルカ如キ意思ナキ旨聲明スルコトヲ得ヘシ茲ニ回答ス

第五 支那國政府ニ對スル帝國政府最後通牒

(大正四年五月七日在支日置公使支那國政府へ交付)

抑モ帝國政府カ支那政府ニ對シ今回ノ交渉ヲ開始シタルハ一ハ日獨戰爭ニ因リ發生シタル時局ノ善後ヲ圖ルト一ハ日支兩國ノ親交ヲ阻碍スルノ原因タルヘキ諸種ノ問題ヲ解決シ兩國友好關係ノ基礎ヲ固クシ以テ東亞永遠ノ平和ヲ確保セムトスルニ在ルモノニシテ本年一月我提案ヲ支那政府ニ申入レテヨリ以來今日ニ至ルマテ胸襟ヲ披キ支那政府ト會議スルコト實ニ二十有五回ヲ重ネタリ此間帝國政府ニ於テハ終始妥協ノ精神ヲ以テ我提案ノ要旨ヲ解説シ同時ニ支那政府ノ主張ニ至テハ細大努メテ之ニ聽キ圓滿和平ノ間ニ解決ヲ見ムコトヲ努メタルニ於テ實ニ餘蘊ナキヲ信ス交渉全部ノ討議ハ第二十四回會議即客月十七日ニ於テ略終了シタルヲ以テ帝國政府ハ交渉全部ヲ通シテ支那政府ノ論議シタル所ヲ參酌シ最初編製シタル原提案ニ對シ多大ノ修正讓歩ヲ加ヘ同月二十六日ヲ以テ修正案ヲ支那政府ニ提出シ其ノ同意ヲ求ムルト同時ニ若シ支那政府ニシテ該案ニ對シ同意ヲ表スルニ於テハ日本カ多大ノ犠牲ヲ以テ獲得シタル膠州灣一帶ノ地ヲ公正至當ナル條件ノ下ニ適當ノ機會ニ於テ支那ニ還附スヘキコトヲ聲明セリ

帝國政府ノ修正案ニ對シ五月一日ヲ以テ支那政府ノ與ヘタル回答ハ全然帝國政府ノ豫期ニ反スルモノニシテ當ニ該案ニ對シ誠意アル研究ヲ加ヘタルノ痕ヲ示ササルノミナラス膠州灣還附ニ關スル帝國政府ノ苦衷ト好意ニ對シテハ殆ト一顧ノ勞ヲモ與ヘサルモノナリ元來膠州灣ノ地タル商業上軍事上實ニ東亞ニ於ケル一要地ニシテ之ヲ獲取スルカ爲ニ日本帝國ノ費シタル血ト財トノ尠少ナラサルコトハ言テ俟タサルナリ而シテ既ニ一度之ヲ我手ニ收メタル以上ハ敢テ支那ニ還附スルノ義務毫モ之ヲキニ拘ラス進テ之ヲ還附セムトスルハ誠ニ將來ニ於ケル兩國國交ノ親善ヲ思ヘハナリ然ルニ支那政府ニ於テ帝國政府ノ苦心ヲ諒トセサルハ實ニ帝國政府ノ遺憾禁スル能ハザル所ナリ支那政府ハ當ニ膠州灣還附ニ關スル帝國政府ノ情誼ヲ顧ミサルノミナラス帝國政府ノ修正案ニ對スル其ノ回答ニ於テ同地ノ無條件還附ヲ求メ日獨戰爭ニ際シ日本カ膠州灣ニ於テ用兵ノ結果生シタル避クヘカラサル各種損害ノ賠償ノ責ニ任セムコトヲ求メ其ノ他同地方ニ關係シ數項ノ要求ヲ提出スルト同時ニ更ニ今後日獨講和ノ會議ニ參加スルノ權アルコトヲモ聲明セリ殊ニ膠州灣無條件還附若クハ日獨戰爭ノ爲ニ生シタル避クヘカラサル損害ノ賠償ヲ日本ニ於テ負擔スヘントノ要求ノ如キハ日本ニ對シ到底其ノ容認スル能ハサルコト明白ナル所ノモノヲ求メムトスルニ外ナラス而モ支那政府ハ右要求ヲ含メル今回ノ對案ヲ以テ其ノ最後ノ決答ナリト明言セリ從テ日本ニ於テ是等ノ要求ヲ

容認セサル限り他ノ諸項ニ關シ如何ニ妥協商定スル所アルトモ是等ハ皆遂ニ何等ノ意味ヲモ有セサルコトトナルヘク結局支那政府今回ノ回答ハ其ノ全體ニ於テ全く空漠無意義ノモノトナルニ至ルヘシ

加之翻テ帝國政府ノ修正案中他ノ條項ニ對スル支那政府ノ回答ニ就テ考フルモ素ト南滿洲及東部内蒙古ノ地タル地理上政治上將タ商工ノ利害上帝國ノ特殊關係ヲ有スル地域タルハ中外ノ認ムル所ニシテ此關係ハ實ニ帝國カ前後二回ノ戰役ヲ經タルニヨリテ特ニ深キヲ致シタルモノトス然ルニ支那政府ハ此事實ヲ閑却シ帝國ノ該地方ニ於ケル地位ヲ尊重セス即チ支那政府ノ代表者カ會議ノ席上言明シタル所ニ基キテ帝國政府カ互讓ノ精神ヲ以テ案出シタル條項ニ付テモ支那政府ノ回答ハ濫リニ之ヲ改削シテ代表者ノ陳述ヲシテ一片ノ空言ニ止ラシメタルモノアリ或ハ一方ニ於テ之ヲ許シナカラ他方ニ於テ之ヲ禁セントスルカ如キモノアリテ支那當局者ノ信義ト誠意トハ全然之ヲ認ムルヲ得ス

將又顧問ニ關スル件學校病院用地ニ關スル件兵器若クハ兵器廠ニ關スル件南支鐵道ニ關スル件等ニ關シテハ帝國政府ノ修正案ハ關係外國ノ同意ヲ條件トシタルカ若クハ支那政府代表者ノ已ニ言明シタル處ヲ記錄シ置カントスルカニ止リ何等支那ノ主權又ハ條約ニ牴觸スルモノニアラス然ルニ支那政府ノ回答ハ單ニ主權又ハ條約等ニ關係アリトシテ帝國政府ノ希望ニ

應スルコトヲ拒絶セリ

三十二

帝國政府ハ支那政府ノ此ノ如キ態度ニ鑑ミ此上協商ヲ繼續スルノ餘地殆ト之ナキヲ遺憾トスルモノナリト雖極東平和ノ維持ニ眷々タル帝國ハ努メテ本交渉ヲ圓滿ニ結了シ時局ノ紛糾ヲ避ケムコトヲ冀ヒ難キヲ忍ヒテ更ニ隣邦政府ノ情意ヲ酌ミ曩ニ帝國政府ノ提出シタル修正案中第五號ノ各項ニ就キ已ニ兩國政府代表者間ニ協定ヲ經タル福建省ニ關スル公文交換ノ一事ヲ除クノ外五項ハ本交渉ト引離シ後日改メテ協商スルコトトナスヲ承諾スヘキニヨリ支那政府ニ於テモ亦帝國政府ノ誼ヲ諒トシ他ノ各項即第一號第二號第三號第四號ノ各條項及第五號中福建省ニ關スル公文交換ノ件ニ付テハ去ル四月二十六日ヲ以テ提出シタル修正案記載ノ通り之ニ對シ何等改訂ヲ加フルコトナク速ニ應諾センコトヲ茲ニ重テ勸告シ帝國政府ハ此勸告ニ對シ支那政府ヨリ來ル五月九日午後六時迄ニ満足ナル回答ニ接セムコトヲ期待ス右期日迄ニ満足ナル回答ヲ受領セザルトキハ帝國政府ハ其ノ必要ト認ムル手段ヲ執ルヘキコトヲ併セテ茲ニ聲明ス

第六 最後通牒提出ノ際在支日置公使ヨリ陸外交總長ヘ 手交セル説明書

- 一、最後通牒後段福建省ニ關スル公文交換ノ一事ヲ除クノ外五項トアルハ顧問備聘ニ關スル件、學校病院用地ニ關スル件、南支諸鐵道ニ關スル件、兵器及兵器廠ニ關スル件及布教權ニ關スル五件ヲ指スモノナリ
- 二、福建省ニ關スル件ハ四月二十六日提出セル我最後修正案ノ通ト爲スモ又ハ五月一日支那國政府ヨリ提出セル對案ノ通トスルモ何レニテモ差支ナシ
此次最後通牒中ニハ四月二十六日提出ノ我修正案ニ對シ改訂ヲ加ヘスシテ應諾スヘキコトヲ支那國政府ニ求メアルモ右ハ原則ヲ示シタルモノニシテ本項及(四)(五)ノ如キ例外アルコトハ特ニ注意ヲ要ス
- 三、此次最後通牒ヲ以テ要求セル各項ヲ支那國政府ニ於テ承諾スルニ於テハ四月二十六日支那國政府ニ對シ聲明セル膠州灣還附ニ關スル件ハ依然其ノ儘殘リ居ル次第ナリ
- 四、第二號第二條中ニ土地租賃又ハ購買ト記載シアルハ暫租又ハ永租ト改ムルモ差支ナク或ハ永キ期限付且無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムコトノ明カナル了解ノ下ニ商租ノ語ヲ

三十三

用フルモ可ナリ

三十四

- 五、東部内蒙古ニ關スル事項中租稅擔保借款ニ關スル件及鐵道借款ニ關スル件ハ共ニ「日本國政府ニ向ツテ商議ス」ト記載シアルモ右ハ同種事項ニ關スル滿洲ニ付テノ取極同様「日本國資本家ニ向ツテ商議ス」ト改ムヘシ
- 又東部内蒙古ニ關スル事項中開埠ノ件ハ開埠地點及商埠章程ノコト迄モ條約文中ニ規定スルコトナリ居レトモ地點及章程ノ件ハ山東省ノ取極同様公文ノ交換トナスモ差支ナシ
- 六、我最後修正案第三號中「該公司關係人」トアル「關係人」ノ語ヲ削除スルモ差支ナシ
- 七、條約及其ノ他一切ノ附屬文書ハ日本文ヲ以テ正文トスルカ又ハ日漢兩文ヲ以テ正文トスヘキコト

第七 帝國政府ノ最後通牒ニ對スル支那國政府ノ回答（譯文）

（大正四年五月八日在支日置公使接受）

五月七日午後三時支那國政府ハ日本國公使ノ手交セラレタル同國政府ノ最後通牒一件及附加解釋七條ヲ受領セリ該通牒ノ末段ニ日本國政府ハ支那國政府ヨリ五月九日午後六時迄ニ満足ナル回答アラムコトヲ期待ス若シ期限ニ至リ満足ナル回答接到セサレハ日本國政府ハ其ノ必要ト認ムル手段ヲ執ラムト欲ス併セテ聲明ストアリ

支那國政府ハ東亞ノ和平ヲ維持スル爲ニ起見シ日本國政府ヨリ四月二十六日提出セル修正案第五號中ノ五項ヲ他日ノ協商ニ讓ル外第一號第二號第三號第四號ノ各項及第五號中ノ福建問題ニ關スル公文交換ノ件ハ四月二十六日提出ノ修正案ニ記載セル通竝日本國政府ヨリ交付セラレタル最後通牒附加七條ノ解釋通り直ニ應諾シ以テ中日間ノ有ユル懸案ヲ解決シ益兩國ノ親善ヲ鞏固ナラシムコトヲ希フ即日本國公使ハ期ヲ定メ外交部ニ惠臨シ文字ノ修正ヲ行ヒ速ニ調印セラレムコトヲ請フ

三十五

第八 大正四年五月二十五日調印ノ條約竝同日交換セル公文

山東省ニ關スル條約

日本國皇帝陛下及支那共和國大統領閣下ハ極東ニ於ケル全局ノ平和ヲ維持シ且兩國ノ間ニ存スル友好善鄰ノ關係ヲ益鞏固ナラシムコトヲ欲シ右ノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ特命全權公使從四位勳二等日置益ヲ支那共和國大統領閣下ハ中卿一等嘉禾勳章外交總長陸徵祥ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協議決定セリ

第一條 支那國政府ハ獨逸國カ山東省ニ關シ條約其ノ他ニ依リ支那國ニ對シテ有スル一切ノ權利利益讓與等ノ處分ニ付日本國政府カ獨逸國政府ト協定スル一切ノ事項ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第二條 支那國政府自ラ芝罘又ハ龍口ヨリ膠濟鐵道ニ接續スル鐵道ヲ敷設セムトスル場合ニ於テ獨逸國カ煙灘鐵道借款權ヲ拋棄シタルトキハ支那國政府ハ日本國資本案ニ對シ借款ヲ商議スヘキコトヲ約ス

第三條 支那國政府ハ成ルヘク速ニ外國人ノ居住貿易ノ爲自ラ進ミテ山東省ニ於ケル適當ナ

ル諸都市ヲ開放スヘキコトヲ約ス

第四條 本條約ハ調印ノ日ヨリ效力ヲ生ス

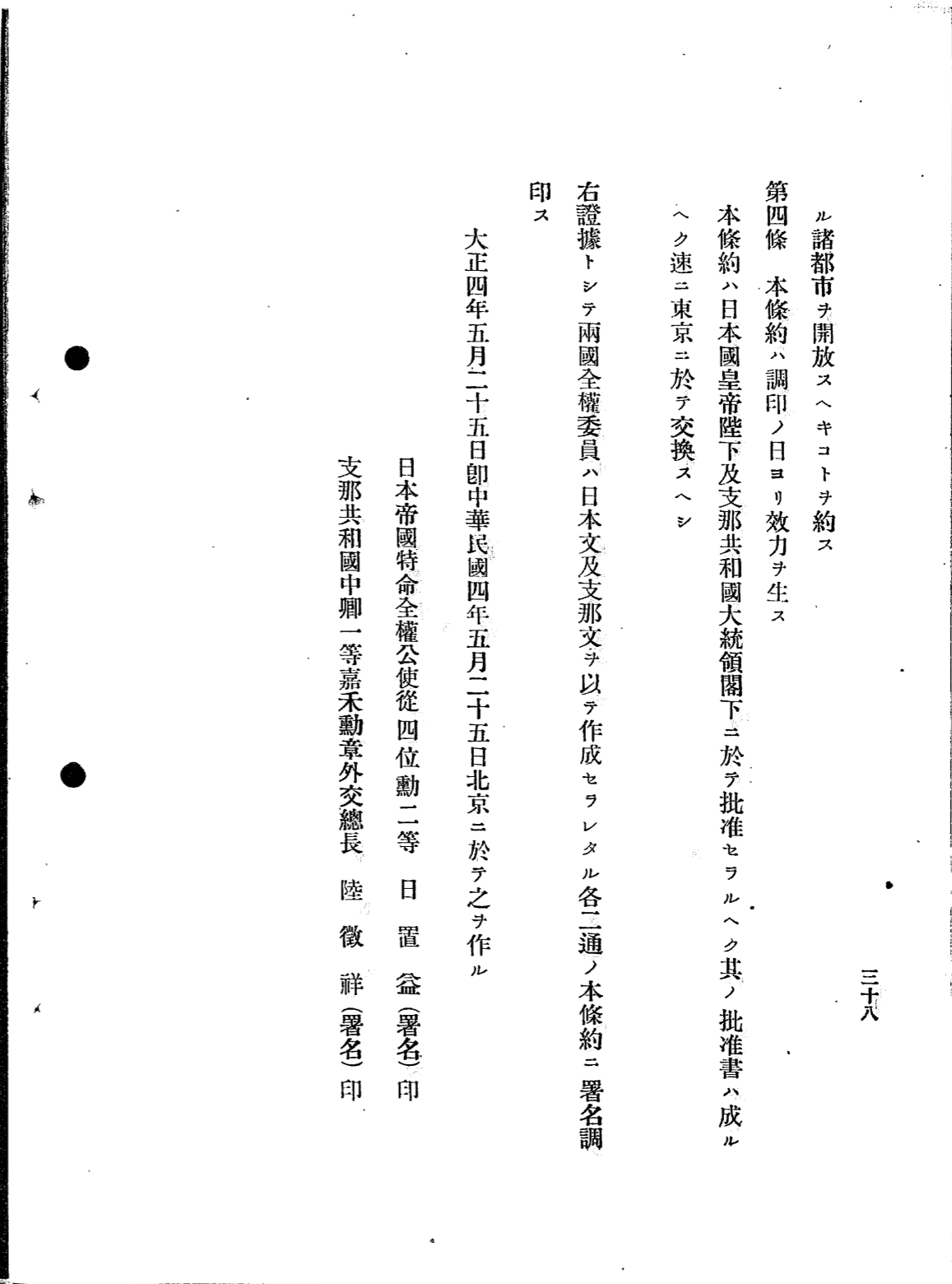
本條約ハ日本國皇帝陛下及支那共和國大統領閣下ニ於テ批准セララルヘク其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ日本文及支那文ヲ以テ作成セラレタル各二通ノ本條約ニ署名調印ス

大正四年五月二十五日即中華民國四年五月二十五日北京ニ於テ之ヲ作ル

日本帝國特命全權公使從四位勳二等 日 置 益 (署名) 印

支那共和國中卿一等嘉禾勳章外交總長 陸 徵 祥 (署名) 印



爲照會事本總長以中國政府名義對貴國政府聲明將山東省內或其沿海一帶之地或島嶼無論以何項名目概不租與或讓與外國相應照會即希查照須至照會者

右 照 會

日本國特命全權公使 日 置 益

中華民國外交總長 陸 徵 祥 (署名) 印

中華民國四年五月二十五日

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那國政府ハ山東省內若ハ其ノ沿岸一帶ノ地又ハ島嶼ヲ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス外國ニ租與又ハ讓與スルコトナカルヘキ旨貴國政府ノ名ニ於テ帝國政府ニ對シ聲明相成致領承候
右回答得貴意候敬具

大正四年五月二十五日



日本帝國特命全權公使 日 置 益(署名)印

四十

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

爲照會事本日畫押之關於山東省條約內第三條所規定應行自開商埠之地點及章程由中國政府自行擬定與日本國公使協商後決定之相應照會即希

查照須至照會者

右 照 會

日本國特命全權公使 日 置 益

中華民國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

中華民國四年五月二十五日

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ山東省ニ關スル條約第三條ニ規定セル開放スヘキ諸都市及商埠章程ハ支那國政府自ラ之ヲ擬定シ豫メ日本國公使ニ協議ノ上決定可致旨御照會相成致領承候
右回答得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

四十一

日本帝國特命全權公使

日

愷

益(署名)印

四十二

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約

日本國皇帝陛下及支那共和國大統領閣下ハ南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル兩國間ノ經濟關係ヲ發展セシムコトヲ欲シ右ノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ特命全權公使從四位勳二等日置益ヲ支那共和國大統領閣下ハ中卿一等嘉禾勳章外交總長陸徵祥ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協議決定セリ

第一條 兩締約國ハ旅順大連ノ租借期限並南滿洲鐵道及安奉鐵道ニ關スル期限ヲ何レモ九十
九箇年ニ延長スヘキコトヲ約ス

第二條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル爲又ハ農業ヲ經營スル爲
必要ナル土地ヲ商租スルコトヲ得

第三條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ自由ニ居住往來シ各種ノ商工業其ノ他ノ業務ニ從事スル
コトヲ得

第四條 日本國臣民カ東部內蒙古ニ於テ支那國國民ト合辦ニ依リ農業及附隨工業ノ經營ヲ爲
サムトスルトキハ支那國政府之ヲ承認スヘシ

四十三

第五條 前三條ノ場合ニ於テ日本國臣民ハ例規ニ依リ下附セラレタル旅券ヲ地方官ニ提出シ登録ヲ受ケ又支那國警察法令及課税ニ服スヘシ
民刑訴訟ハ日本國臣民被告タル場合ニハ日本國領事官ニ於テ又支那國國民被告タル場合ニハ支那國官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派シ臨席傍聽セシムルコトヲ得但シ土地ニ關スル日本國臣民及支那國國民間ノ民事訴訟ハ支那國ノ法律及地方慣習ニ依リ兩國ヨリ員ヲ派シ共同審判スヘシ

將來同地方ノ司法制度完全ニ改良セラレルトキハ日本國臣民ニ關スル一切ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那國法廷ノ審判ニ歸スヘシ

第六條 支那國政府ハ成ルヘク速ニ外國人ノ居住貿易ノ爲自ラ進ミテ東部內蒙古ニ於ケル適當ナル諸都市ヲ開放スヘキコトヲ約ス

第七條 支那國政府ハ從來支那國ト各外國資本家トノ間ニ締結シタル鐵道借款契約規定事項ヲ標準ト爲シ速ニ吉長鐵道ニ關スル諸協約並契約ノ根本的改訂ヲ行フヘキコトヲ約ス
將來支那國政府ニ於テ鐵道借款事項ニ關シ外國資本家ニ對シ現在ノ各鐵道借款契約ニ比シ有利ナル條件ヲ附與シタルトキハ日本國ノ希望ニヨリ更ニ前記吉長鐵道借款契約ノ改訂ヲ行フヘシ

第八條 滿洲ニ關スル日支現行各條約ハ本條約ニ別ニ規定スルモノヲ除クノ外一切從前ノ通り實行スヘシ

第九條 本條約ハ調印ノ日ヨリ效力ヲ生ス
本條約ハ日本國皇帝陛下及支那共和國大統領閣下ニ於テ批准セララルヘク其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ日本文及支那文ヲ以テ作成セラレタル各二通ノ本條約ニ署名調印ス

大正四年五月二十五日即中華民國四年五月二十五日北京ニ於テ之ヲ作ル

日本帝國特命全權公使從四位勳二等 日置 益(署名)印
支那共和國中卿一等嘉禾勳章外交總長 陸 徵 祥(署名)印



爲照會事本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第一條所規定旅順大連租借期限展至民國八十六年即西曆一千九百九十七年爲滿期南滿鐵路交還期限展至民國九十一年即西曆二千零二年爲滿期其原合同第十二條所載自開車之日起三十六年後中國政府可給價收回一節毋庸置議又安奉鐵路期限展至民國九十六年即西曆二千零七年爲滿期相應照會即希查照須至照會者
右 照 會

日本國特命全權公使 日置 益

中華民國外交總長 陸 徵 祥(署名) 印

中華民國四年五月二十五日

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第一條ニ規定セル旅順大連租借期限ノ延長ハ民國八十六年即西曆千九百九十七年ニ至リ滿期トナリ南滿洲鐵道還附期限ハ民國九十一年即西曆二千零二年ニ至リ滿期ト可相成尙其ノ原條約第十二條

ニ記載セル運轉開始ノ日ヨリ三十六年ノ後支那國政府ニ於テ買戻スヲ得ルノ一節ハ之ヲ無効トスヘク又安奉鐵道ノ期限ハ民國九十六年即西曆二千七年ニ至リ滿期ト可相成旨御照會ノ趣致領承候

右回答得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使 日 置 益(署名)印

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

爲照會事本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第六條所規定中國應行自開商埠之地點及章程由中國政府自行擬定與日本國公使協商後決定之相應照會即希查照須至照會者

右 照 會

日本國特命全權公使 日 置 益

中華民國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

中華民國四年五月二十五日

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第六條ニ規定セル開放スヘキ諸都市及商埠章程ハ支那國政府自ラ之ヲ擬定シ豫メ日本國公使ニ協議ノ上決定可致旨御照會相成致領承候
右回答得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使

日置

益(署名)印

支那共和國外交總長 陸徵祥 殿

五十

爲照會事日本國臣民在南滿洲左開各礦除業已探勘或開採各礦區外速行調查選定中國政府即准其探勘或開採但在礦業條例確定以前應仿照現行辦法辦理相應照會即希

查照須至照會者

右 照 會

日本國特命全權公使 日置 益

中華民國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

中華民國四年五月二十五日

一 奉 天 省	所 在 地	縣 名	礦 種
牛 心 台	本 溪	本 溪	煤
田 什 付 溝	本 溪	本 溪	煤
杉 松 崗	海 龍	海 龍	煤

五十一

鐵 廠
暖 池 塘
鞍山站一帯
通 化
錦
由遼陽縣起
至本溪縣止
二 吉林省南部
所 在 地
縣 名
和 龍
吉 林
樺 甸
礦 種
煤 鐵
煤 鐵
金

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ日本國臣民ニ於テ南滿洲ニ於ケル左記各鑛山(既ニ試掘又ハ採掘セラレタル各鑛區ヲ除ク)ヲ速ニ調査ノ上選定シタル節ハ支那國政府ハ其ノ試掘又ハ採掘ヲ允許可致但シ鑛業條例確定ニ至ル迄ハ現行辦法ニ準據スヘキモノナル旨御照會ノ趣致領承候
右回答得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使 日 置 益(署名)印

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

左 記

一 奉 天 省
所 在 地
縣 名
鑛 種
牛 心 台
本 溪
石 炭
田 什 付 溝
本 溪
石 炭
杉 松 崗
海 龍
石 炭
鐵 廠
通 化
石 炭
暖 池 塘
錦
石 炭
鞍山站一帯
遼陽縣ヨリ本溪縣ニ互ル
鐵
五十三

二 吉林省南部

所在地
杉松崗
缸窰
夾皮溝

縣名
和龍
吉林
樺甸

鑛種
石炭、鐵
石炭
金

五十四

爲照會事本總長以中國政府名義對貴國政府聲明嗣後在南滿洲及東部內蒙古雷造鐵路由中國自行籌款建造如需外資可先向日本國資商家商借又中國政府嗣後以前開地方之各種稅課除中國中央政府業經爲借款作押之鹽稅關稅等類外作抵由外國借款時可先向日本國資商家商借相應照會即希

查照須至照會者

右 照 會

日本國特命全權公使 日置 益

中華民國外交總長

陸

徵

祥(署名)印

中華民國四年五月二十五日

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那國政府ハ將來南滿洲及東部內蒙古ニ於テ鐵道ヲ敷設スル場合ニハ自國ノ資金ヲ以テスヘク若シ外資ヲ要スルトキハ先ツ日本國資商家ニ借款ヲ商議可致又支那國政府ハ前記地方ノ各種稅課(但シ既ニ支那中央政府借款ノ擔保トナレル鹽

五十五

税關稅等ノ類ヲ除ク)ヲ擔保トシテ外國ヨリ借款ヲ起サムトスルトキハ先ツ日本國資本家ニ
商議可致旨貴國政府ノ名ニ於テ帝國政府ニ對シ聲明相成致領承候
右回答得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使

日 置

益(署名)印

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

爲照會事本總長以中國政府名義對貴國政府聲明嗣後如在南滿洲聘用政治財政軍事警察外國顧
問教官時可儘先聘用日本人相應照會即希
查照須至照會者

右 照 會

日本國特命全權公使 日 置 益

中華民國外交總長

陸 徵

祥(署名)印

中華民國四年五月二十五日

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那國政府ハ將來南滿洲ニ於テ政治財政軍事警察等ニ
關スル外國顧問教官ヲ傭聘セムトスルトキハ最先ニ日本人ヲ傭聘スヘキ旨貴國政府ノ名ニ於
テ帝國政府ニ對シ聲明相成致領承候
右回答得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使 日 置 益(署名)印

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第二條ニ記載セル商租ノ文字ニハ三十箇年迄ノ長キ期限附ニテ且無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムモノト了解致候
右照會得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使 日 置 益(署名)印

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

爲照覆事接准本日照稱本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第二條所載之商租二字須了解含有不過三十年之長期限及無條件而得續租之意等語業經閱悉相應照覆即希
查照須至照覆者

右 照 會

日本國特命全權公使 日 置 益



六十

中華民國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

中華民國四年五月二十五日

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第五條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服從スヘキ警察法令及課稅ハ豫メ支那國官憲ニ於テ日本國領事官ト協議ノ上施行スヘキ儀ニ有之候
右照會得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使 日 置 益(署名)印

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

爲照覆事接准本日照稱依本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第五條之規定日本國臣民應服從之警察法令及課稅由中國官吏與日本國領事官接洽後施行等語業已閱悉相應照復即希查照須至照覆者

右 照 會

六十一

日本國特命全權公使 日置 益

中華民國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

中華民國四年五月二十五日

爲照會事本日畫押之關於南滿洲及東部內蒙古條約內第二條第三條第四條及第五條中國政府因須準備一切擬自本條約畫押之日起延期三個月實行應請

貴國政府同意相應照會即希

查照須至照會者

右 照 會

日本國特命全權公使 日置 益

中華民國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

中華民國四年五月二十五日

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第二條第三條第四條及第五條ハ支那國政府ニ於テ諸般ノ準備ヲ整フル必要上同條約調印後三個月間其ノ實施ヲ延期シタキ旨御照會相成領承帝國政府ニ於テハ事情已ムヲ得サルモノト認メ右ニ致同意候

右回答得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使

日

置

益(署名)印

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

爲照會事中國政府因日本國資本家與漢冶萍公司有密接之關係如將來該公司與日本國資本家商定合辦時可即允准又不將該公司充公又無日本國資本家之同意不將該公司歸爲國有又不使該公司借用日本國以外之外國資本相應照會即希
查照須至照會者
右 照 會

日本國特命全權公使 日 置 益

中華民國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

中華民國四年五月二十五日

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ支那國政府ハ日本國資本家ト漢冶萍公司トノ關係極メテ密接ナルニ鑑ミ將來同公司ト日本國資本家トノ間ニ合辦ノ議成リタルトキハ之ヲ承認スヘク又同公司ヲ沒收スルコトナカルヘク又日本國資本家ノ同意ナクシテ同公司ヲ國有ト爲スコトナカルヘク又日本國以外ヨリ外資ヲ同公司ニ入レシムルコトナカルヘキ旨御照會ノ趣致領

承候

右回答得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使

日 置

益(署名)印

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

以書翰致啓上候陳者聞ク所ニヨレハ支那國政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ外國ニ造船所軍用貯炭所海軍根據地其ノ他一切ノ軍事上ノ施設ヲ爲ヌコトヲ許シ又支那自ラ外資ヲ借入レ前記各施設ヲ行ハムトスルカ如キ意思アル趣ナルカ支那國政府ニ於テハ果シテ斯カル意思テ有セラ
ルヤ否ヤ御回答ヲ得度此段照會得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使

日 置

益(署名)印

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

爲照覆事接准本日照稱各節業已闕悉中國政府茲特聲明並無在福建省沿岸地方允許外國設造船所軍用貯炭所海軍根據地及其他一切軍事上施設之事又無借外資欲爲前項施設之意思相應照覆
即希

查照須至照覆者

右 照 會

日本國特命全權公使 日置 益

中華民國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

中華民國四年五月二十五日

以書翰致啓上候陳者本使ハ帝國政府ノ名ニ於テ茲ニ左ノ如ク貴國政府ニ對シ聲明スルノ光榮
ヲ有シ候

日本國政府ハ現下ノ戰役終結後膠州灣租借地ニシテ全然日本國ノ自由處分ニ委セララルル場合
ニ於テハ左記條件ノ下ニ該租借地ヲ支那國ニ還附スヘシ

- 一 膠州灣全部ヲ商港トシテ開放スルコト
- 二 日本國政府ニ於テ指定スル地區ニ日本專管居留地ヲ設置スルコト
- 三 列國ニシテ希望スルニ於テハ別ニ同居居留地ヲ設置スルコト
- 四 右ノ外獨逸ノ營造物及財産ノ處分竝其ノ他ノ條件手續等ニ付キテハ還附實行ニ先テ日
本國政府ト支那國政府トノ間ニ協定ヲ遂クヘキコト

右照會得貴意候敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使 日 置 益(署名)印

支那共和國外交總長 陸 徵 祥 殿

爲照覆事准本日照會

貴公使以貴國政府名義對本國政府聲明日本國政府於現下之戰役終結後膠州灣租借地全然歸日本國自由處分之時於左開條件之下將該租借地交還中國等語業已閱悉

- 一 以膠州灣全部開放爲商港
- 二 在日本國政府指定之地區設置日本專管租界
- 三 如列國希望共同租界可另行設置
- 四 此外關於德國之營造物及財產之處分並其他之條件手續等於實行交還之先日本國政府與中國政府應行協定

相應照覆即希

查照須至照覆者

右 照 會

日本國特命全權公使 日置 益

中華民國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

中華民國四年五月二十五日

(參考)

支那國政府公文譯文

以書翰致啓上候陳者本總長ハ支那國政府ノ名ニ於テ茲ニ左ノ如ク貴國政府ニ對シ聲明スルノ

光榮ヲ有シ候

支那國政府ハ山東省内若ハ其ノ沿海一帯ノ地又ハ島嶼ヲ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス外國

ニ租與又ハ讓與スルコトナカルヘシ

右照會得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日置 益 殿

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ山東省ニ關スル條約第三條ニ規定セル開放スヘキ諸都市及開

埠章程ハ支那國政府自ラ之ヲ擬定シ豫メ日本國公使ニ協議ノ上決定可致候
右照會得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第一條ニ規定セル旅順大連租借期限ノ延長ハ民國八十六年即西曆千九百九十七年ニ至リ滿期トナリ南滿洲鐵道還附期限ハ民國九十一年即西曆二千二年ニ至リ滿期ト可相成尙其ノ原條約第十二條ニ記載セル運轉開始ノ日ヨリ三十六年ノ後支那國政府ニ於テ買戻スヲ得ルノ一節ハ之ヲ無効トスヘク又安奉鐵道ノ期限ハ民國九十六年即西曆二千七年ニ至リ滿期ト可相成候
右照會得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第六條ニ規定セル開放スヘキ諸都市及商埠章程ハ支那國政府自ラ之ヲ擬定シ豫メ日本國公使ニ協議ノ上決定可致候
右照會得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿

以書翰致啓上候陳者日本國臣民ニ於テ南滿洲ニ於ケル左記各鑛山(既ニ試掘又ハ採掘セラレタル各鑛區ヲ除ク)ヲ速ニ調査ノ上選定シタル節ハ支那國政府ハ其ノ試掘又ハ採掘ヲ允許可

致但シ鑛業條例確定ニ至ル迄ハ現行辦法ニ準據スヘキモノニ有之候
右照會得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿

左記(略)

以書翰致啓上候陳者本總長ハ支那國政府ノ名ニ於テ茲ニ左ノ如ク貴國政府ニ對シ聲明スルノ
光榮ヲ有シ候

支那國政府ハ將來南滿洲及東部內蒙古ニ於テ鐵道ヲ敷設スル場合ニハ自國ノ資金ヲ以テスヘ
ク若シ外資ヲ要スルトキハ先ツ日本國資本家ニ借款ヲ商議スヘシ又支那國政府ハ前記地方ノ
各種稅課(但シ既ニ支那中央政府借款ノ擔保トナレル鹽稅關稅等ノ類ヲ除ク)ヲ擔保トシテ外

國ヨリ借款ヲ起サムトスルトキハ先ツ日本國資本家ニ商議スヘシ
右照會得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿

以書翰致啓上候陳者本總長ハ支那國政府ノ名ニ於テ茲ニ左ノ如ク貴國政府ニ對シ聲明スルノ
光榮ヲ有シ候

支那國政府ハ將來南滿洲ニ於テ政治財政軍事警察ニ關スル外國顧問教官ヲ備聘セムトスル
トキハ最先ニ日本人ヲ備聘スヘシ
右照會得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第二條ニ記載セル商租ノ文字ニハ三十箇年迄ノ長キ期限附ニテ且無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムモノト了解相成候旨御照會ノ趣致領承候
右回答得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第五條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服從スヘキ警察法令及課稅ハ豫メ支那國官憲ニ於テ日本國領事官ト協議ノ上施行スヘキ儀ニ有之候旨御照會ノ趣致領承候
右回答得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿

以書翰致啓上候陳者本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第二條第三條第四條及第五條ハ支那國政府ニ於テ諸般ノ準備ヲ整フル必要上同條約調印後三箇月間其ノ實施ヲ延期致度候ニ付貴國政府ノ御同意ヲ得度候
右照會得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿

以書翰致啓上候陳者支那國政府ハ日本國資本家ト漢冶萍公司トノ關係極メテ密接ナルニ鑑ミ
將來同公司ト日本國資本家トノ間ニ合辦ノ議成リタルトキハ之ヲ承認スヘク又同公司ヲ沒收
スルコトナカルヘク又日本國資本家ノ同意ナクシテ同公司ヲ國有ト爲スコトナカルヘク又日
本國以外ヨリ外資ヲ同公司ニ入レシムルコトナカルヘク候
右照會得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致領承候支那國政府ハ福建省沿岸地方ニ於
テ外國ニ造船所軍用貯炭所海軍根據地其ノ他一切ノ軍事上ノ施設ヲ爲スヲ許スカ如キコト決
シテ無之又外資ヲ借入レ前記施設ヲ爲サムト欲スルカ如キ意思ナキコトヲ茲ニ致聲明候
右回答得貴意候敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名)印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ日本國政府ハ現下ノ戰役終結後膠州灣租借地ニシテ全
然日本國ノ自由處分ニ委セラレル場合ニ於テハ左記條件ノ下ニ該租借地ヲ支那國ニ還附スヘ
キ旨貴國政府ノ名ニ於テ支那國政府ニ對シ聲明相成致領承候

- 一 膠州灣全部ヲ商港トシテ開放スルコト
- 二 日本國政府ニ於テ指定スル地區ニ日本專管居留地ヲ設置スルコト



三 列國ニシテ希望スルニ於テハ別ニ同居留地ヲ設置スルコト

四 右ノ外獨逸ノ營造物及財産ノ處分竝其ノ他ノ條件手續等ニ付キテハ還附實行ニ先テ日

本國政府ト支那國政府トノ間ニ協定ヲ遂クヘキコト

右回答得貴意候敬具

中華民國五年四月二十五日

支那共和國外交總長 陸 徵 祥(署名) 印

日本帝國特命全權公使 日 置 益 殿